

B P を通して学んだことは

「あれっ、A君はどこにしているのかな……わからないなあ。」

先日、ある学級のボディパーカッション（B P）の演奏に立ち会いました。B P の練習になかなか気乗りしないA君のことを聞いていましたので、私は演奏を楽しみながら、自然と彼を探していました。演奏をする生徒から距離を置いていた私には、生徒たちの顔がはつきりと見えません。B P の練習に気乗りしなかったり、仲間のようにはできなかったりするA君なら、顔がわからなくてもすぐにわかるはず。私はそう思っていました。

しかし、実際は、どこにA君がいるのかわからないくらい拍手や動きがそろっていました。全員がそろった時の美しさや、目まぐるしく拍手や動きが変化する興味深さに、私は自然と引きつけられ、A君を探すことをやめました。もともと、すばらしい演奏が目の前で繰り広げられていれば、探す必要はありませんでした。

届いた情報によると、A君の個人的な努力はもちろん、仲間の支えや配慮があつてここまでやってこられたとのこと。私は大変うれしく思いました。A君が救われたからだけではありません。彼を通して、仲間が大切なことを学んでいるとわかったからです。

本日、B P 発表会がありました。全ての学年、全ての学級の演奏に立ち会いました。甲乙つけるつもりは当然なく、全ての学級が時間をかけて作ってきたというだけで、私は大満足でした。感染症の影響で、仲間と作り上げることが難しくなった今、職員の熱い思いと生徒の皆さんの努力と優しさが、発表会を大成功に導きました。

集団生活の中で、皆さんに大切にしてほしいのは、「仲間を理解しようとすること」です。今回のB Pにしても、これまで中学校で当然のように取り組まれてきた体育大会や合唱にしても、そのできばえや成績ばかりに目が向けば、苦手な仲間、気が進まない仲間、できない仲間が悲しい思いをします。悲しみの上に作り上げてきたものでは、意味がありません。

それを学ぶのが学校・学級です。そして、教えてくれるのが仲間です。したがって、支援や配慮が必要な仲間からは大切なことが学べると考えるべきです。たった数分の本番演奏以上に、多くの時間をかけてきた取り組みの中に、多くの学びがあると考えるべきです。

校長としてやってきた六年間。「長」がつく立場に高飛車にならず、私は常に職員の状態を気にしてやってきたつもりです。男性と女性の違い、年齢の違い、経験値の違い、立場の違い、教科の違い、教育に対する考え方の違い、体調の違い……まだまだありますが、そんな違いがあっても、私の学校の大切な職員ですから、常に一人一人を尊重して職員集団を率いてきたと自負しています。

一緒ですね。B Pを通して学んだことは、大人の世界でも十分通用することです。皆さんのこれからの人生や生活の中で、必ず生きてくると私は思っています。

（二月二十五日 記）